

Powered by
歴史人

Vol.01

玉野の歴史再発見!

玉野人

サイクリング×歴史の新提案

鶴姫ら女軍が激闘した常山城

塩から魚、海苔まで、玉野の海と食の歴史

東部の立石や化粧地蔵

市内サイクリングMAP



サイクリング×歴史の新提案

人 野 玉

岡山県の南端に位置する玉野市は、瀬戸内海に面した湾岸都市。古くから漁業や製塩業、造船業などで栄えてきたエリアで、湾岸部には宇野港をはじめとした活気ある港が点在している。

群雄割拠する戦国時代には、上野氏や宇喜多氏など名だたる武将がこの地を拠点とした。市内には戦国時代の山城跡が多く残り、なかでも常山城は城主・上野隆徳と妻の鶴姫が毛利氏と激闘を繰り広げた地として有名だ。

本誌では常山城や海の産業の歴史のほか、市内東部エリアの郷土史にもクローズアップする。巻末のサイクリングマップでルートやスポットをチェックして、地元をたどってみたい。

目次

戦国の鶴姫激闘の地

4 常山城物語

- 4 鶴姫
- 6 宇喜多氏
- 8 与太郎神社
- 9 上野隆徳
- 9 常山女軍供養祭

古代から現代まで玉野を支える

10 海と食の歴史

- 10 ① 海×塩
- 14 ② 海×海苔
- 14 ③ 海×魚

テーマで知る郷土の歴史

15 玉野市東部の神話と信仰

- 15 番田立石
- 16 東見化粧地蔵
- 17 東見児島八十八ヶ所霊場

- 18 歴史スポットとあわせて巡る
玉野市内サイクリングMAP

まさごきみや
表紙イラスト／「常山の鶴姫」正子公也氏
岡山県玉野市出身の絵巻作家。中央大学理工学部物理学科在学中に漫画家の寺沢武一氏に師事し、寺沢プロダクション制作部長を経て独立。「三国志」「水滸伝」「戦国武将」などを題材にした作品で知られる。現代の代表的な歴史・武将イラスト作家。

企画制作／歴史人編集部
協力／玉野市 玉野市文化財保護委員会 岡山県立博物館
ナイカイ塩業株式会社 ひびきなだ文化研究会
編集／深谷美和 地図／アトリエ・プラン デザイン／株式会社カチドキ
営業／佐藤真一郎 校正／東京出版サービスセンター
編集人／後藤隆之 発行人／園部 充 発行所／株式会社ABCアーク
©ABC ARC 本誌掲載記事・写真・イラスト等の無断複製（コピー）・複製・転載を禁止します。

常山城物語

JR常山駅の南に位置する常山は、戦国時代に国人・上野氏が拠点とした地。上野氏と毛利氏が激闘を繰り広げ、豊臣政権下には宇喜多氏の所領となった。常山城について、鶴姫や宇喜多氏などのキーワードで迫る。

鶴姫

常山城主・上野隆徳の妻。攻め寄せられる毛利氏の軍勢に女軍を率いて立ち向かった勇敢な女性。



常山

のどかな田園風景のなかに立つ常山。山頂からは児島湾から岡山市街方面まで見渡せる。



常山城本丸への石段

常山の北山麓(JR常山駅の南側)から登山口へ。麓から山頂までは30~40分ほどかかる。



本丸石垣

山頂の本丸付近には高さ2、3メートルの石垣が残る。兵庫丸、柵尾丸などにも石垣が点在。

毛利軍に突撃した女傑 鶴姫の伝説

同年6月7日、次々と自決していく上野一族。この惨劇を前にして、悲壮な決意を固めた女性がいた。隆徳の妻・鶴姫である。鶴姫は、具足に身を固め、敵勢(毛利氏)に突撃せんとしたのだ。城兵の妻らはそれを止めようとすると、鶴姫は拒否し、駆け出していく。それを見た鶴姫の侍女34人も、鶴姫の後を追ひ、毛利軍に突撃。鶴姫は、毛利方の乃美宗勝に戦いを挑むも、敵兵の攻撃により負傷し、城内に退いたという。城内に退却した鶴姫は、短刀を口にくわえ、身を伏せて、自害したといわれる。武將顔負けの凄まじい死である。鶴姫に付き従った34人の女たちも、自害あるいは討死したと思われる。鶴姫と34人の「女軍」の壮絶な最期。彼女たちを供養するために昭和49年(1974)より行われているのが「常山城女軍供養祭」である。ちなみに上野隆徳も自害し、ここに上野氏は滅亡する。



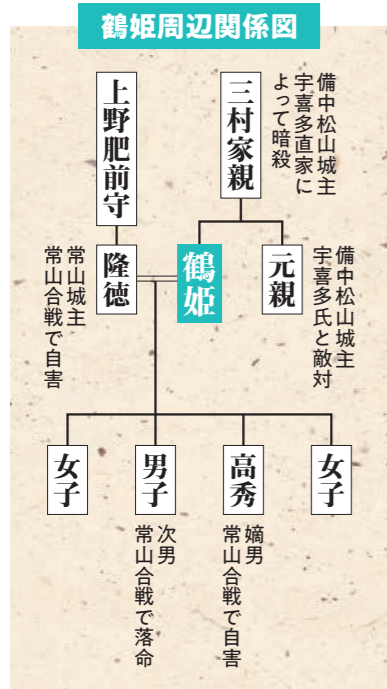
常山女軍供養墓

山頂付近には、激闘の末に自害した鶴姫を含む上野一族と侍女34名の供養墓が立つ。自由参拝可。



底無井戸

尾根筋の間にある井戸。常山城の水源地で、一度も枯れたことがないといわれている。



常山合戦の舞台となった 児島半島の山城

常山城(跡)は、岡山県の児島半島に所在する。標高307メートルの常山に築かれた山城であった。常山は「児島富士」とも呼ばれ、児島において3番目に高い山である。山頂からは、岡山平野や四国までをも望むことができる。眺望の良さが常山に城が築かれた理由であろう。常山に城を築いたのは、備中国の国人・上野氏の一族といわれている。築城の時期は、戦国時代の初期ともいわれるが定かではない。

児島は中世においては「島」であって、海上交通の要衝であった。よって、諸国の武将たちの争奪の対象となった。常山城といえば、天正3年(1575)の常山合戦が著名であろう。常山城主の上野隆徳と、西国の大名・毛利氏との戦いである。上野氏最後の当主・隆徳の妻は鶴姫といった。備中松山城(岡山県高梁市)城主・三村家親の娘である。

毛利氏から攻撃を受けた三村氏。縁戚にある隆徳は三村氏に加勢したのであった。毛利氏の軍約6千に常山城を包囲され、風前の灯の隆徳。城兵は僅か200人ほどであった。隆徳は奮戦するも、最早、落城は避けられない。

早川秀秋は慶長7年(1602)に早逝。秀秋に嗣子がいなかったことで、備前は池田氏が治めることになった。それに伴い、常山城は廢城となり「歴史的役割」を終える。常山城は、常山の山頂に「本丸」がある。本丸から北と北東に延びる尾根に合わせて13の「曲輪」が築かれている。常山城は連郭式(本丸や二の丸などの曲輪が連続して配置された縄張)の山城であった。城跡には、上野隆徳が自刃したとされる「腹切岩」、石垣、「底無井戸」と呼ばれる井戸、鶴姫と侍女らの供養墓などが残っている。供養墓には献花が絶えず、人々の鶴姫らに対する哀悼の想いを知ることができる。

常山城跡

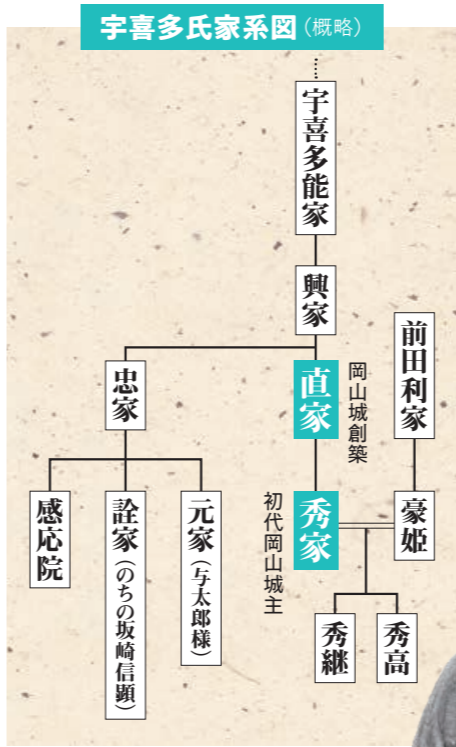
電話/0863-33-5005(玉野市商工観光課) 住所/玉野市用吉 見学自由 駐車場/登山口に駐車場あり

宇喜多氏

常山城は上野氏の滅亡のあと毛利氏に渡り、その後宇喜多氏家老の戸川氏が主となった。



宇喜多秀家肖像(岡山城蔵)
宇喜多直家の子で、豊臣政権下では五大老のひとりとなる。正室は前田利家の子(秀吉の養女)豪姫。



宇喜多直家木像
(光珍寺旧蔵)
備前を拠点に勢力を拡大した戦国大名。城下町・岡山の開府者として知られる。

備前国の国人・宇喜多氏と直家による勢力拡大

玉野市はかつて備前国に属しており、室町時代の守護は赤松氏だった。赤松氏は、嘉吉元年(1441)の嘉吉の乱で、6代将軍足利義教を暗殺したことから追討され、一時勢力が衰えたが、応仁元年(1467)に勃発した応仁・文明の乱で活躍し、復権を果たしていたものである。

播磨国を本国とする赤松氏は、備前国と美作国の守護も兼ねていた。しかし、戦国時代になると、備前国の守護代であった浦上氏が下剋上により主家の赤松氏を凌駕し、備前国はもとより、美作国や播磨国の支配にも乗り出していく。

この浦上氏の下剋上を支えたのが、宇喜多能家である。宇喜多氏は、備前国の有力な国人(国衆)であった。しかしながら、能家の時代に台頭してきたこともあり、それ以前の系譜については詳らかでない。

ふつう宇喜多氏は、備前国の名族であった三宅氏の後裔であるとされる。三宅氏は、古代に朝鮮半島西南部に勃興した百済の王族が祖であるという。宇喜多能家像(岡山県立博物館蔵)替にも、三宅氏の後裔であるとしている。史実か否かはともかく、これが生前に描かれた寿像であることを

考えれば、能家自身は、三宅氏の末裔であると自認していたということには間違いはない。

これに対し、備前国邑久郡(瀬戸内市)内の豪族グループの流れをくむ児島氏という説もある。児島氏は、南北朝の動乱で後醍醐天皇に忠誠を尽くしたことで知られる児島高德で有名であるが、実際に宇喜多氏が児島氏の系譜に連なるか否かはわからない。

それはともかく、能家は主君の浦上村宗を支え、有力な家臣となっていた。しかし、村宗の死後、その遺臣らに謀反の疑いをかけられ、砥石城(瀬戸内市)で自害に追い込まれたという。さらに、能家の子・興家が早世したことで、宇喜多氏は一時的に没落してしまった。

しかし、その後、興家の子とされる直家が、宇喜多氏の再興を果たす。直家は享禄2年(1529)の生まれで、天文13年(1544)に元服すると、浦上村宗の子にあたる宗景から乙子城(岡山市東区)を任された。そして、浦上家中の内紛を収めつつ、宗景による備前平定に活躍していくことになるのである。

備前を平定する際に問題となったのは、浦上家中の敵対勢力だけではなかった。備前国の西隣に位置する備前中国の三村家親が、安芸国の毛利



戸川秀安の墓
高さ2m45cmの五輪塔。秀安は晩年を常山の麓の寺で過ごし、慶長2年(1597)に没した。



日賢・日教の墓
戸川秀安の重臣といわれる2名の墓。写真左が日賢、右が日教で、秀安の墓とともに玉野市指定文化財。

毛利氏の同盟から常山合戦へ突入

天正元年(1573)、15代将軍の足利義昭を追放した織田信長が完全に政治の実権を握ると、浦上氏は信長から播磨・備前・美作3か国の領有を認められる。これを不服とした直家は、ついに浦上氏との決別に至った。翌天正2年(1574)、直家は毛利輝元と同盟し、浦上氏と対決する道を選んだのである。

この毛利氏と宇喜多氏との同盟は、備前中国の三村氏を刺激することとなった。父を殺した直家を不倶戴天の敵とみなす三村元親は、この和睦を受け入れることができず、叔父・三村親成や一部の重臣の反対を押し切

元就と結んで備中一国を平定すると、備前・美作両国への侵入を図っていたためである。こうした三村氏の侵入に対し、浦上宗景の命令で迎え撃ったのが直家だった。直家は、永禄9年(1566)に三村家親が美作国に侵入してくると、興善寺に在陣していた家親を暗殺したという。これにより、家親の跡を継いだ子の元親が備前国に侵入してくると、今度は逆に備前・美作両国から三村氏の勢力を駆逐した。さらに、永禄11年(1568)には、西備前に勢威を誇っていた金川城(岡山市北区)の松田氏を滅ぼしている。こうして直家は、主君の浦上宗景に拮抗する権勢を手に入れたのだった。



友林堂
住所/玉野市宇藤木 見学自由 駐車場/なし

友林堂

常山城麓の堂宇。宇喜多直家に仕え、のちに常山城主となつた戸川秀安幽林の位牌を安置する。玉野市指定文化財。

拝殿の天井絵

折り上げ格天井の格間には鮮やかな天井絵が描かれている。拝殿は唐破風に千鳥破風が連なる優美な造り。



与太郎神社

八浜合戦で命を落とした宇喜多与太郎元家を祀る。足の神様、「与太郎様」と親しまれる。



本殿

サイクリストやハイカーも多く参拝に訪れる。足腰の健康を祈って絵馬を奉納する人も。

与太郎神社

住所／玉野市八浜町大崎2764
見学自由 駐車場／なし

八浜の領民が偲んだ 宇喜多元家

宇喜多元家は毛利輝元と結ぶことで勢力を拡大し、備中松山城の三村元親を滅ぼした直後、備前天神山城（和気町）に拠る浦上宗景を追放した。これにより宇喜多元家は、備前国・備中国・美作国から播磨国の一部を領する大名になったのである。

そのころ、播磨国には織田信長の命を受けた豊臣（羽柴）秀吉が進出しており、天正7年（1579）、直家は毛利氏から離反し、織田氏へ転属する。このため宇喜多元氏は、毛利氏と激しく対立するようになった。

天正9年（1581）末、直家が岡山城で病死し、わずか10歳の子・秀家が家督を継ぐ。「備前軍記」によると、毛利氏に知られないように直家の死は秘匿されたという。

この間、幼君の秀家を補佐する叔父の忠家は、毛利氏の侵攻に備えるため、児島に八浜城（玉野市）を築かせ、防備を強化させている。当時の児島は、文字通り、島になっていた。そのため、毛利氏が児島を足がかりとして岡山城に進出してこころを想定し、児島で毛利軍を迎え撃とうとしたのである。

案の定、翌天正10年（1582）正月に直家の死が公になると、毛利輝元は叔父にあたる備中猿掛城主の穂

田元清に命じ、児島へと渡海させてきた。毛利軍による児島への上陸は、すぐに岡山城に急報され、宇喜多元家は、秀家の名代として宇喜多元家を総大将とする軍勢を児島へと派兵したのである。ちなみに、元家は忠家の実子ともいわれる。

いずれにしても、宇喜多元家に率いられた戸川秀安・岡家利らは、八浜城の一带に布陣した。このころ、すでに毛利軍は麦飯山に砦を築いていたようである。両軍の距離は、わずか2kmほどだった。

しばらく対峙が続いたが、2月21日、小競り合いから本格的な戦闘になつてしまう。これが、いわゆる八浜合戦である。この戦いで、総大将の元家が銃撃され、討ち死にしまった。流れ玉にあたったともいうが、乱戦でのことなので、わからない。それでも、宇喜多元の家臣が殿として奮戦したことにより、毛利軍による追撃を振り切り、全軍を八浜城に撤退させたと伝わる。このとき殿として奮戦した家臣は、世に「八浜七本槍」と称されている。

八浜合戦ののち、領民が元家の菩提を弔うため塚を築いたらしい。元家の通称が与太郎であったことからこの塚は与太郎塚と呼ばれ、いつしか与太郎神社として祀られるようになったようである。

上野隆徳

鶴姫の夫であり、常山城の上野氏最後の当主。常山合戦で嫡子とともに自害した。



腹切岩

石碑の隣に残る腹切岩。隆徳はこの岩のうえで自害したと伝わる。

城主上野隆徳公碑

本丸跡にはこの地で奮戦した隆徳を偲ぶ石碑が立つ。石碑のそばから景色を一望。

常山城跡 ▶ P7

鶴姫・一族家臣とともに 常山城で奮戦した城主

備中の上野氏は足利將軍家の一族であり、室町時代には備中国の守護にもなっている。しかし、備中国では国人による覇権争いが激化し、上野氏の嫡流は没落してしまう。そうしたなか、その庶流が備前国児島郡に移り、常山城を本城とするようになったとみられている。

戦国時代の末期の常山城の城主は、上野隆徳である。このころ、備中国では備中松山城の三村家親が安芸国の毛利元就と結び備中一国を手中におさめていた。そうしたなか、上野隆徳は三村家親の娘・鶴姫を正室に迎え、勢力を保っていたのである。三村氏が毛利氏に従っている間は、児島も平穏だった。しかし、三村家親の跡を継いだ元親が毛利氏から離反したことで、松山城は毛利氏によって攻撃され、落城してしまう。その後、元親の妹婿にあたる上野隆徳は、抵抗を続けていたが、天正3年（1575）6月、小早川隆景に攻撃される。このとき城内には、すでに100余の兵しかいなかったという。隆徳は一族とともに自刃し、常山城は落城してしまつた。

常山女軍 供養祭

毎年8月11日、鶴姫ら常山合戦に参加した女軍を偲ぶ供養祭を開催。見学自由。

常山城で散った女軍を 演舞や舞踊で供養

天正3年（1575）、西国の雄・毛利氏は、上野隆徳が籠る常山城（玉野市）を攻撃する。

大軍に攻囲された常山城は落城の危機に晒されていたが、その時、隆徳の妻・鶴姫と34人の「女軍」は、敵勢に応戦し、華々しくも無念の最期を遂げたという。そんな彼女たちを供養するために、現代でも行われているのが、「常山女軍供養祭」である。

同供養祭は、昭和49年（1974）に初めて開催された。毎年8月に行われている。

常山で行われており、誰でも見学は自由。地元住民や玉野地踊保存会のメンバーが集まり、常山女軍の歌と踊りを奉納する供養祭。整備された女軍塚の前に、出席者は線香を供えることができる。

戦国の世の悲劇の女性たちに想いを馳せ、その死を悼みつつ、供養祭に出席されては如何だろうか。

年によって内容は異なり、常山観光協会主催・2023年8月の供養祭は、特別に「岡山戦国武将隊」が演舞を披露した。



供養祭の様子

常山女軍の墓があるのは北二の丸。周辺で地元の人々によって供養祭が営まれている。

供養祭は誰でも自由に見学可能。供養塔の前に静かに手を合わせたい。

海と食の歴史

今日の玉野市の発展を語るうえで欠かせないのが、海に関する産業の歴史だ。玉野の人々にとっての海や港、製塩などの産業について、古代から近現代までの歴史にふれながら紹介する。

① 海×塩

玉野市内の海とゆかりの深い神社

古くから海の守護神として信仰されてきた。船の進水式の支綱(しこう)を使った御守も授与。



海中に立ち、火玉が飛び出たとされる巨石を立石と呼び、御神体としたのが神社の起源とされる。

玉比咩神社

航海安全、安産の神として知られる豊玉姫命を祀る。かつては周辺が入江で、境内にそびえる立石が着岸する船の目印になったという。



鳥居のすぐそばには古代から霊岩として崇められてきた立石がそびえる。

玉比咩神社 電話/0863-31-6805
住所/玉野市玉5-1-17
境内自由 駐車場/あり

古代〜奈良時代 製塩の黎明を告げる

古代人は海水を土器で煮詰めて塩を得た。玉野市の児島半島は日本の製塩のルーツとなった土器製塩の古里で、弥生時代中頃には西日本で最も早く塩づくりが始まった。やがて土器は小さく薄くなり、石敷炉を用いる製塩の専業集団も現れて、弥生時代後期には瀬戸内海沿岸一帯に製塩が広まった。

平城宮跡で発見された木簡(321号)には備前国児島郡賀茂郷・三家郷から塩を納めたと記されている。賀茂郷・三家郷とは玉野エリアの古い地名。塩の産地で屯倉が置かれ、大和政権への租税として塩が貢進された。この税は農民への負担であり、都まで背負って納付した(運脚)。やがて8世紀には煎熬と呼ばれる煮詰めの過程に塩竈が採用され、さらには塩浜による製塩へと進化した。「日本後記」延暦18年(799)の記述に塩焼きを生業とし、塩で租税を納める児島郡の人々が登場。塩づくり玉野のルーツを物語る。瀬戸内海沿岸の一大産業へと発展した製塩の最初の歩みは玉野から。古代以来の製塩の歴史を物語る東野崎の塩竈神社には、製塩法を伝えたとされる塩土老翁神が祀られている。

戦国時代 塩と制海権をめぐる

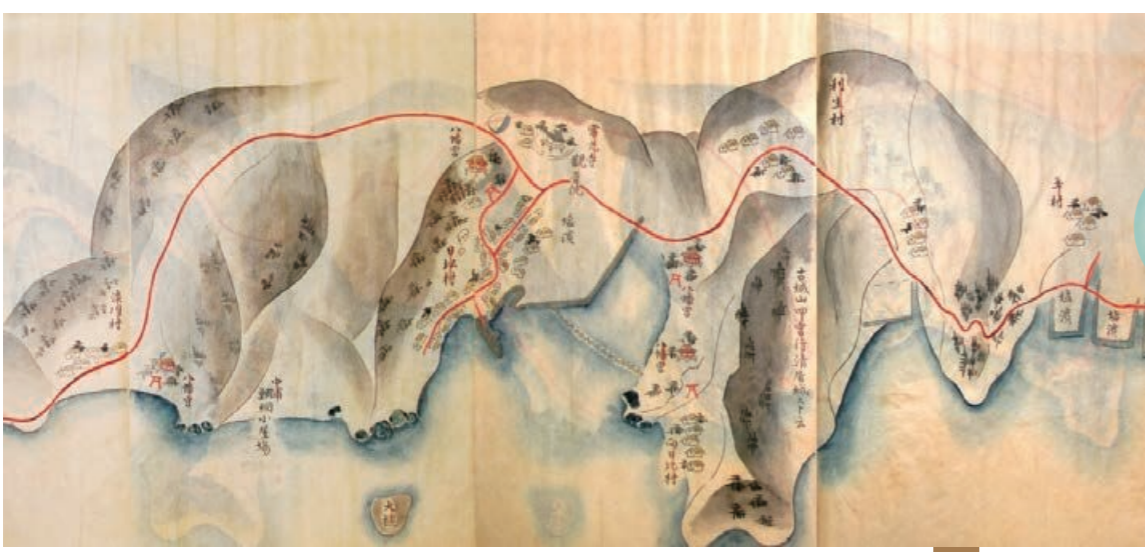
製塩の村々と廻船の港を抱える玉野で、戦国の武将たちは城を構え、船を繰り出し、海の恵みと制海権の掌握をめざした。玉野では山城の常山城が知られているが、海にゆかりの城も多い。番田と日比には児島郡の要港があり、15世紀半ばの記録から、塩をはじめとする産物が兵庫北関の港を経由し、近畿各地へ送られていた。また、四宮隠岐守の一族は日比を拠点に水軍を持ち、城山に本城を置き、地蔵山に見張り所となる砦を築いて睨みをきかせた。番田では立石山頂にそびえる巨岩が沖を行く船の目印になり、現在も名所となっている。

日比眼前の海には塩飽諸島を制した塩飽水軍がいた。塩飽とは塩焼きから転じた呼称で、塩飽水軍は豊臣秀吉の九州征伐にも加勢し、名を馳せた。戦国末期には、塩浜と塩竈のある沼に円山城が築かれ、播磨の雄・赤松一族の緋田氏が根拠とした。ほかにも上山坂に高島城、山田に井上城・三宅城、玉に玉城、胸上に胸上城と港があった。天正13年(1585)には、豊臣秀吉の四国攻めに加わるため、小西行長が多数の船団を率いて日比に寄港。戦国時代も大詰めの頃である。

日比港の発展

江戸時代

享保6年(1721)ごろの日比海岸の様子の絵図。塩田、集落、神社などが描かれている。岡山大学附属図書館所蔵「池田家文庫」備陽記より



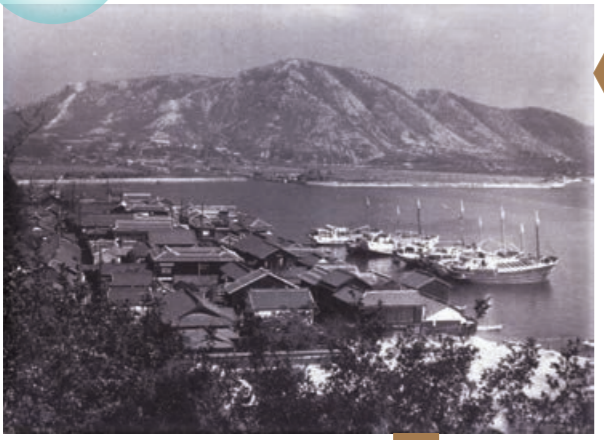
大正時代

大正初期の日比港の様子。明治〜大正時代に漁業で栄え、汐待ちの港として旅館などが軒を連ねた。



昭和時代

戦後、昭和25年ごろの様子。戦後に宇野港が整備されると、日比港は汐待ちの港から木材輸入などを主とする港へと役割を変えていく。



現代

現在の日比港及び向日比港。現在は物流専用岸壁や日比共同製錬の専用岸壁などが整備されている。



①海×塩



塩竈神社と製塩

拝殿

江戸時代に東野崎浜に勧請された。現在の拝殿は昭和3年(1928)の竣工。境内や周辺には塩田関連の史跡が点在する。



東野崎塩田の碑

明治17年(1884)、東野崎浜を製塩の拠点とした野崎武左衛門の遺徳を偲び、孫の武吉郎が建立。

野崎武左衛門とナイカイ塩業



野崎武左衛門

文政12年(1829)に倉敷市児島で塩田事業を開始。玉野市にある東野崎浜などを築造し「日本の塩田王」と呼ばれた。上両写真提供/ナイカイ塩業株式会社



入浜式塩田

東野崎支店と東野崎浜での入浜式塩田作業の様子(現在の玉野市山田)。近隣にナイカイ塩業株式会社の製塩工場がある。

旧専売局味野収納所 山田出張所

住所/玉野市山田3218-5

見学自由(外観のみ見学可)



塩専売に関わる公文書を保管したレンガ造りの文書庫。木造の建物とセットで現存する例は珍しい。

旧専売局味野収納所 山田出張所



明治41年(1908)3月に竣工した旧大蔵省の建物。現在は外観のみ見学可能。



ナイカイ塩業株式会社

東野崎浜の塩田跡地の隣接地にある



かつて運河の役割を果たしていた汐入川にかかる橋で、東野崎の南浜と北浜を結ぶ橋。船が通る際に船から竿で橋の中央を開閉させていた。

塩竈神社

住所/玉野市東野崎3
境内自由 駐車場/あり

江戸時代 玉野の製塩と東野崎浜

江戸時代、玉野は十州塩田の中核エリアとなる。十州塩田とは文化年間(1804~1818)に全国の塩の9割を生産した瀬戸内海沿岸の10か国(播磨・備前・備中・備後・安芸・周防・長門・阿波・伊予・讃岐)をさす。

当時、製塩は最先端の技術と最大級の規模を誇る基幹産業だった。躍進の原動力が、瀬戸内の大きな潮の干満差を利用する入浜式塩田で、時代と共に生産力を大幅に高めた。遠浅の海岸で、半島に囲まれた地形の場所が多い玉野では、入浜式を導入しやすかったといえる。江戸中期以降に多くの塩田が築造された。

文政9年(1826)に日比を訪れたシーボルトも塩田に注目した。欧州の製塩法よりもはるかに完成度が高いと讃え、玉野の設備と方法を詳述している(『江戸参府紀行』)。

江戸後期には野崎武左衛門(1789~1864)が文政12年(1829)に塩田事業を児島・野崎浜で築造し、その後玉野の亀浜(日比)・東野崎浜など児島半島を中心に広大な塩田を開発した。塩田王と呼ばれた武左衛門は、近代的経営の先駆ともいえる当歩方(とうくまかた)の手法を取り入れ、事業を成功に導いたことでも知られる。

近現代

伝統と今が風景の中で交差する

明治38年(1905)に施行された塩専売法は平成9年(1997)まで継続。近代の製塩は公益事業として発展した。伝統の入浜式塩田も昭和中期まで受け継がれたが、以後は技術革新が進む。

昭和44年(1969)以降は「イオン膜製塩法」の導入で、天候に左右されない経済的、効率的な塩づくりが行われ、現在に至る。

塩竈神社には東野崎塩田碑があり、東野崎浜の塩田跡地の隣接地では、野崎武左衛門が興した製塩事業を継承するナイカイ塩業(株)本社工場が操業している。同社は江戸後期から現代まで一貫して製塩を継続してきた日本で唯一の製塩会社である。最先端のプラントを構築して今も健在だ。

塩の旧専売局庁舎(旧専売局味野収納所 山田出張所)は、大蔵省臨時建築部が携わった数少ない現存建築で国の登録文化財。近代建築史に残る貴重な遺構である。山田港からは塩づくりの古里、瀬戸内の海と島々が間近に見渡せる。市街地にも塩田の石垣などが残り、玉野は塩づくりの里の今昔が風景の中で交差する街だ。

② 海×海苔

海苔の揺り籠 海の風物詩



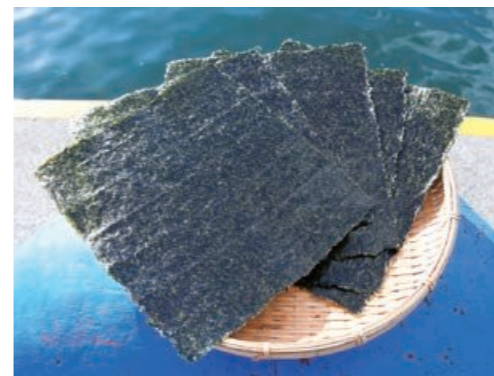
11月中旬、沖合の海水面に網を一枚ずつ設置。手作業で200枚以上張る。

玉野の胸上は海苔の名産地。瀬戸内海に流れ込む河川が運ぶミネラル塩に恵まれて、岡山県最大の海苔養殖場がある。網張り、網の干し・洗い、本張りなど日々の丹念な作業を経て、11〜3月の収穫期に、網の下の成長した葉体を潜り船で刈り取る。「胸上海苔」は色つやと歯切れがよく、噛むほどに甘さと旨味が口に広がる。栄養たっぷりの最高級海苔はギフトや土産品に最適だ。

海面を覆う網の上で浮きが揺られて連なる「浮流し式の網」は、風景としても魅力的だ。なかでも胸上金比羅神社から山田港越しに見渡す養殖場の眺めは、まさに海苔の揺り籠と呼ぶにふさわしい。



海苔の網干しの風景。海で干し、洗う作業を繰り返す。



11月下旬に収穫して共同加工施設で加工したあと商品化される。

③ 海×魚

現代の玉野市内の主な港



汐待ち、風待ちの港として栄えてきた胸上港。

玉野の漁業を発展させた個性豊かな港

古来より豊かな漁場で水運の要路だった瀬戸内海の沿岸で、豊臣期〜江戸期に港が繁栄した。加子浦とは

船や水夫の徴発に応じる代わりに地子の免除や漁業権などを得た村々で、玉野では八浜と日比と胸上があった。日比は鯛網漁で名高く、生鯛の回送船で江戸や大坂に出荷。八浜は岡山藩より在町に指定され、児島湾内の漁業権の8割を握って、大漁師による組織的な漁業を進めた。酒造や醤油醸造業が成長すると廻船業が繁栄し、港は賑わいを極めた。玉野の海では鯛やナマコなども獲れ、宇藤木は牡蠣が名産で、繁殖用の牡蠣波戸が風物詩となった。

今も八浜には、往時の土蔵や屋敷が八浜町並み保存拠点施設として残る。歴史の跡地で、春は桜咲く並木が訪れる人を迎えてくれる。

テーマで知る郷土の歴史 玉野市東部の神話と信仰

玉野市東部の神話と信仰

玉野市東部には、郷土色の豊かな伝説や風習が残る。古代ローマンの香る立石や、東児地区で受け継がれる化粧地蔵、児島八十八ヶ所霊場をテーマとする、東部の豊かな郷土史に注目してみたい。

番田 立石



番田の立石
住所／玉野市番田 時間・料金・休み／見学自由

市内の主な立石



玉比咩神社の立石
玉地区の玉比咩神社にも高さ約10mの霊石が鎮座。同神社の御神体で、火の玉伝説が伝えられている。
住所／玉野市玉5-1-17 玉比咩神社境内
見学自由 駐車場／玉比咩神社駐車場利用



東児の立石
絶妙なバランスで立つようにも見える東児の立石。下から見上げるとダイナミックさが際立つ。
住所／玉野市上山坂 見学自由



番田地区の登山口から徒歩約1時間で立石にたどり着く。眼下には絶景が広がる。

突き立てたような奇岩そびえる「番田の立石」

玉野市東部に位置する番田地区。その地にそびえるのが、標高154mの立石山である。山頂に突き立てたような奇岩(高さ12.3m)がそびえているのが、遠くからでも仰ぎ見ることが出来る。古代磐座信仰に関する遺跡で、海上を行き交う船の目印だったことも容易に想像できそうだ。所在地の名を付けて「番田の立石」と呼ばれているが、高さ約10数mもの巨石が突き立つ姿を見て、「鉾を突き立てたような」と表現されるこ

ともある。別名として、鉾立石とも呼ばれるのもそのためだろう。ちなみに、「こ」でいうところの「鉾を突き立てる」とは、かの神功皇后が、三韓征伐の帰路、東児の鉾島に立ち寄って鉾を立てたとの伝承をもとにしてのことと思われる。もちろん、それは皇后の成果を誇るための伝承であるが、神功皇后ゆかりの地として知られる鉾島がすぐ東に位置しているから、当地までそう呼ばれても不思議ではないのだ。

ただし、神功皇后が本当に実在したのか、はたまた本当にここに立ち寄ったのか、それは定かではない。それでも、神功皇后にまつわる何らかの史実を反映したものであろうことは想像できそうだ。

東児・八浜

化粧地蔵



点在する化粧地蔵



東児
児島八十八ヶ所霊場



玉野市の重要文化財に指定されている地蔵菩薩立像を所蔵する。室町時代の作。(非公開)

本堂には本尊で秘仏の薬師如来像を安置。境内は桜や紅葉が美しいことでも知られる。



第1番 中蔵院
児島八十八ヶ所霊場の第1番札所。室町時代の宝徳年間(1449~1452)の再興と伝わり、境内には巡礼者のための茶堂もある。

第1番 中蔵院
電話/0863-66-5629
住所/玉野市北方1470
境内自由



第88番 明王院
番田の丘の上に立つ、児島八十八ヶ所霊場第88番札所。表参道を行くと石垣と山門が現れる。

第88番 明王院
電話/0863-66-5561
住所/玉野市番田1571
境内自由



本尊は室町時代作の阿彌陀如来立像(秘仏)で玉野市の指定文化財。

こちらも注目 東部の歴史スポット 銚島



神功皇后が三韓征伐の帰路に立ち寄った際、銚を立てたとして、銚島と呼ばれるようになったとか。引き潮のタイミングで歩いて島まで渡れる。

銚島
住所/玉野市番田
見学自由

京の都からやってきた
女性の悲しい物語

玉野市沼周辺を歩いていると、時にカラフルな化粧を施されたお地藏様と出くわすことがある。当地に古くから伝わる風習だという。京の都とのつながりが元になったもので、都からやってきた艶やかな女性にまつわる話が伝えられている。とある船乗りにつれられて胸上へとやってきた女性にまつわる悲しい物語が元になっているというから、気になってしまふのだ。

長い航海の果てに当地へとやってきたものの、いつしか男に捨てられてしまった女性。身寄りがなくなつたことで、死んだ後、無縁仏になつてしまった。これを哀れんだ地元の人々が、彼女を偲んで、地蔵を色鮮やかに彩って、その霊を慰めたのだとか。化粧を施したばかりか、赤い布を着物に見立てて纏わせることもあるようだ。

ちなみに、地区によって化粧の仕方が異なるといのが興味深い。豊作、豊漁を願って、毎年8月24日に地蔵を顔料などで化粧を施すとか。同様の風習は、丹後や若狭などにも伝わっているようだが、それぞれ化粧の仕方も異なるのだとも。それらを見比べてみると面白そうである。

88もの霊場巡りを目指して
約140kmを踏破

一番札所である玉野市の中蔵院を皮切りとして、八十八番札所の明王院に到るまで、児島の地に点在する八十八所の霊場を巡り歩くというのが、児島八十八ヶ所霊場巡りである。出立地となる玉野市ばかりか、岡山市や倉敷市などに点在する霊場をも合わせ、一周35里(約140km)をめぐる歩くという巡礼の旅である。

この霊場巡りが始まったのは、江戸時代の天保年間の1840年のこと。発案したのは倉敷市にある二十四番札所の吉塔寺の円明和尚をはじめとする3人の和尚たちであったとか。その呼びかけに応じて八十八番札所が整備され、今日に至るまで多くの巡礼者を受け入れ続けてきたのである。

ルート上の道端には、遍路石と呼ばれる道標が置かれてはいるものの、児島八十八ヶ所霊場の情報を事前にチェックしてから巡り歩くのがオススメ。各霊場の所在地を記した地図も盛り込まれているので、心強い味方になってくれるはずだ。もちろん、各霊場で御朱印をいただくための『納経帳』を手にもすることもお忘れなく。道中の景観を楽しみながら、心穏やかなひと時を過ごしてみたいものである。

岡山県指定文化財

名称	種別	所在地
高心の墓	建造物	後閑
不動明王二童子画像	絵画	蓮華庵
木造冥界群像	彫刻	正蔵院
秀天の石橋	建造物	榎ヶ原
八浜のだんじり	有形民俗文化財	八浜

玉野市指定文化財

名称	種別	所在地
不動明王立像	彫刻	金剛寺
金剛寺文書	古文書	金剛寺
阿弥陀如来坐像	彫刻	金剛寺
八浜八幡宮棟札	古文書	八浜八幡宮
快神社本殿	建造物	八浜八幡宮
八浜の秋祭り	無形民俗文化財	八浜町八浜
波知の獅子舞	無形民俗文化財	八浜町八浜
聖観音菩薩立像	彫刻	蓮光院
道清夫婦の墓	建造物	八浜町大崎
山下家の墓	建造物	八浜町八浜
大崎八幡宮宮山一帯	史跡	大崎八幡宮
友林堂	建造物	宇藤木
戸川幽林、日賢・日教の墓	史跡	宇藤木
常山城跡	史跡	常山
薬師如来坐像	彫刻	正蔵院
十一面観音菩薩立像	彫刻	観音院
玉野の盆おどり	無形民俗文化財	
孫座古墳	史跡	田井
聖観音菩薩立像	彫刻	無動院
聖観音菩薩立像	彫刻	龍乗院
不動明王立像	彫刻	常楽院
大師画像	絵画	三宝院
地蔵菩薩立像	彫刻	三宝院
木造阿弥陀如来立像	彫刻	三宝院
地蔵菩薩立像	彫刻	中蔵院
阿弥陀如来立像	彫刻	明王院
聴聞行事	無形民俗文化財	東児地区
石島の弥生式集団墓	史跡	石島
出崎の和鏡	考古資料	玉野市立図書館・中央公民館
菅井の和鏡	考古資料	玉野市立図書館・中央公民館
平形銅剣	考古資料	個人蔵
懸仏基板	歴史資料	早瀬比咩神社

国登録有形文化財

名称	種別	所在地
龍乗院本堂・鐘楼門・石段・石垣	建造物	龍乗院
旧専売局味野収納所山田出張所	建造物	山田

おすすめサイクリングルート

玉野人コース

「ハレいろ・サイクリング OKAYAMA」が推奨している倉敷・玉野シーサイドルートから、さらに東児や八浜エリアへ延長して、景色や文化財の見学を楽しみながら巡る玉野人コースもおすすめです。

玉野市内サイクリングMAP

歴史スポットとあわせて巡る
本誌掲載の歴史スポットと、玉野市内の主な文化財を掲載。
海沿いから東児方面まで、玉野の魅力を再発見できるサイクリングルートもチェックを!



赤文字 : 掲載スポット
青文字 : 玉野市内の文化財
●●●●● : 倉敷・玉野シーサイドルート
●●●●● : 玉野人コース

玉野のいいもの
おいしいもの。

ぼっけえ
ええもん

たまごまの しずく



ウェブブック

[販売]



道の駅みやま公園



玉野観光案内所



通販サイト

玉野市特産品協議会
事務局 玉野市商工観光課
☎0863-33-5005